

越村尚貴の虹の輪（高学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

私は、総合的な学習の時間（以下、総合）で、**地域社会にかかわる人の思いをとらえ、自己の生き方を考える子ども**を目指す。「地域社会にかかわる人の思い」とは、地域を活性化したい、もっとおもしろくしたい、守っていききたいなど、自発的に地域のことを考え、それが自己実現のためであると考えていることである。「自己の生き方を考える」とは、自分にとって学ぶことの意味を考え、学習を通して学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることである。

20世紀後半に起きた地球規模の情報技術革新による急速な社会変化は、子どもたちの将来に大きな影響を与えている。社会変化による職業の多様化は、子どもが自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルを見付けにくくしている。また、社会とかかわる経験が少なくなっていることから、人間関係をうまく築くことができず、将来に希望をもてない子どもが増加している。

このような背景から、我が国では平成11年からキャリア教育の推進が掲げられている。キャリア教育とは、子どもがキャリア（人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね）を形成していくために必要な能力や態度の育成を目指す教育的働き掛けである。しかし、実際の教育現場では、キャリア教育＝職場体験と受け止められやすく、職業以外の様々な役割には目が向けられていないことがキャリア教育の課題として挙げられている。

キャリア教育で大事にしたいのは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく能力や態度を育成していくことである。従来のキャリア教育では、自分らしい生き方を大事にするあまり、社会とかかわることに弱さが見られた。そこで、本研究では、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方をしている人とかかわることを通して、社会に対して自分がどのようにかかわることができるのかを考えさせたい。そのために、以下のように総合におけるキャリア教育を改善していく。

- | |
|--|
| <p>① かかわる対象を、地域のために自主的に活動する人に限定する。</p> <p>② 地域社会のために活動していることが、自己実現につながっていることをとらえさせる。</p> |
|--|

①について、従来のキャリア教育では魅力的な大人とかかわらせる中で、その人の働くことへの思いに触れさせてきた。しかし、この場合、その人には憧れをもつが、社会とそれがどのようにつながっているかが見えにくかった。そこで、かかわる対象を地域のために自主的に活動する人に限定する。こうすることで、子どもは社会とかかわる中で自己実現をしている大人の姿に触れることができる。そして、働くことは自分のためであると同時に、社会のためになっていることを学ぶのである。つまり、かかわる対象を職業人としてのキャリアモデルから、社会市民としてのキャリアモデルへ変えるのである。

②について、本研究のかかわる対象とする社会市民としてのキャリアモデルは、地域社会のために様々な活動をしている。それらの活動は、地域のために行われていることから、ボランティアや地域貢献と混合されやすい。そういった側面もあるが、地域のために活動することが自己実現につながっていることをとらえさせたい。自分のやりたいことや好きなことが、地域のためになっていることに、子どもは憧れをもち、自分もそのような生き方をしたいと考える。

2 主張する働き掛け

(1) 「中核的な学習内容」

地域社会にかかわる人の思い（地域のため、自己実現のために活動しているということ）

(2) 「学びをつなぐ力」

・関係付けるすべを用いて、これまで知っている事実と新しい事実を結び付け、新しい情報を収集するための視点を設定する力

(3) 働き掛け

働き掛け1

<p>新たな事実（〇〇さんの思いが表れている活動）を提示し、これまで知っている事実との違いから、疑問に思うことを問う。</p>

対象としてかかわる人（以下〇〇さん：「対象」）について、新たな問いをもたせるための働き掛けである。

〇〇さんについて、調査活動や体験活動から、その人がどのような活動をしていて、どんな努力や工夫をしてきたかを学んでいる。そのような子どもに、その人の思いに迫ることのできる新たな事実を提示する。子どもは、今までの活動とは違う点に着目し、これまでの学習で得た認識とのずれを感じる。ここで、これまで知っていることとの違いから、疑問に思うことを問う。子

どもは、**比較するすべ**を用いて「今までは△△だったのに、なぜ□□しているのか」という新たな問いをもつ。

働き掛け2

新たな事実について、調べたい視点（何を知りたいか、なぜ知りたいか）を明確にした上で、〇〇さんの活動にかかわる写真を提示したり、〇〇さんに出会わせたりする。

新たな事実から、必要な情報を収集させるための視点を設定させ、〇〇さんの情報を収集させる働き掛けである。

新たな事実を知り、問いをもった子どもに、これから何を知りたいかを問う。子どもは、なぜ□□しているのかという疑問点について知りたいと考える。このような子どもに、なぜそのことを聞きたいのか、理由を問い返す。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、〇〇さんのこれまでの事実と関係付けて、調べる理由を考える。この「何を知りたいか」「なぜ知りたいのか」という発問をセットで行うことで、必要な情報を収集するための視点を明確にさせる。その後、〇〇さんの活動にかかわる写真を提示したり、〇〇さんに出会わせたりする。子どもは調べる視点を基に、〇〇さんについて新たな情報を収集する。

働き掛け3

収集した情報を基に、〇〇さんの様々な活動に対する思いを問う。

収集した情報を整理・分析させるための働き掛けである。

〇〇さんの情報を収集した子どもに、〇〇さんの様々な活動に対する思いを問う。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、一つ一つの活動に対する思いを結び付けて、〇〇さんが地域を活性化したい、もっとおもしろくしていきたい、守っていききたいなど、自発的に地域のことを考え、それが自己実現につながっていることをとらえる。

働き掛け4

〇〇さんとの出会いから、自分が学んだことを問う。

学習のまとめとして、〇〇さんとの出会いから、自分が何を学んだかを問い、学習のまとめシートに書かせる。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、〇〇さんの生き方と自分の生き方を結び付ける。子どもは、地域社会のために活動することが、自分の生きがいになっていることに憧れをもち、自分もそのようになりたいと考える。

「学びをつなぐ力」を自覚させる働き掛け

今までの学習振り返りシートを読み返らせ、自分の考えがどのように変容したかを問い、なぜ変容したのかを振り返らせる。

毎時間書きためておいた学習振り返りシートを読み返らせ、自分の考えがどのように変容したかを問い、なぜ変容したのかを振り返らせる。子どもは、単元学習前と学習後の自分の変化をとらえ、なぜ変容したかを振り返ることで学びをつなぐ力を自覚する。

3 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な学習内容」を創り出すことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、子どもが収集した情報をもとに、地域社会にかかわる〇〇さんの思い（地域のため、自己実現のために活動しているということ）をとらえることができたかを、ワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け2を受けて、関係付けるすべを用いて、これまでの事実と新たな事実を関係付けて、必要な情報を収集するための視点を設定することができたか、ワークシートの記述から検証する。
- ③ 「学びをつなぐ力」を自覚させる働き掛けを受けて、自分の考えの変容に気付き、なぜ変容したかを振り返ることで、想定した「学びをつなぐ力」を自覚することができたかを学習のまとめシートの記述から検証する。

4 年間の授業計画

- | | | | |
|-------------|------|----------------|--------|
| (1) 指定研究授業 | (7月) | 「みんなで歩こう新潟のまち」 | (15時間) |
| (2) 中間検討会 | (9月) | 「新潟魅力人を探そう」 | (20時間) |
| (3) 初等教育研究会 | (2月) | 「完成！新潟人間図書館」 | (20時間) |